

外務省員の声

イラク便り ～モースルへ～

在英国大使館 奥参事官
(CPAを通じた人的協力に参画中)

衆議院のイラク復興支援特別委員会の一行も調査日程を終えて無事出国されたので、今日は朝5時にバグダッドを出発して一路モースルに向かいました。まだ、日が昇らないうちから、北部イラクへ向かう幹線道路には積み荷を満載した大型トラックがひっきりなしに行き交います。約4時間で北部イラクの中心都市の一つモースルに到着です。

今回の北部イラク訪問の目的は北部イラク5県の中心5都市での支援ニーズの下調べです。連合軍とCPAの北部事務所があり、バグダッドからも定期航空便が飛んでいる北部の要衝、モースルからスタートします。この調査には、東京の外務本省からバグダッドに長期出張してくれている、保苺事務官が同行してくれています。

モースルは、聖書に度々出てくるニネヴェの街が母体となってチグリス河の上流沿いに発達し、現在では人口220万人を擁すると言われています。バグダッドに次ぐイラク第二の都市は長らく南のバスラということになっていましたが、今ではモースルの方がバスラを凌いでいるようです。

バグダッドから約400km北上したせいか日中の気温はやや低めですが、それでも午後7時で40度近くあります。市民の楽しみは夕涼みをかねたチグリス河での船遊びです。川岸にはマスグーフを食べさせてくれるレストランがずらりと並んでいて、その岸辺から大小のモーターボートに乗ってチグリス河に繰り出します。家族連れが多く、2週間ほど前にウダイとクサイの2人が近くの家で発見されたとは思えない平穏さです。流域にはケミカル・アリの家もありますが、夕食を共にしたCPAの北部地域調整官であるDick Naab氏は私に「ここはずっと静かで安定した場所だよ。」と語ってくれました。

平成15年8月5日(火)



モースルの街角



夕暮れのチグリス河で船遊びをする人々

[BACK](#) / [FORWARD](#) / [目次](#)